

カナダ・オンタリオ州の中等教育レベルにおける環境教育

9513 小原 奈穂美

指導教員 市川智史教授

1. はじめに

オンタリオ州では、2007年に学校カリキュラムに環境教育を組み入れる方策を検討する環境教育作業部会が設置され、以後さまざまな環境教育の取り組みを行っている。そのようなオンタリオ州の近年の動向をとらえ、環境教育の学習内容を把握することは、今後の日本の環境教育の参考になるものと考えられる。そこで本研究では、カナダ・オンタリオ州の中等教育レベルに焦点を当て、環境教育政策の動向を把握するとともに、第11学年に設定されている科目「環境科学」について、日本の高等学校科目の学習内容を念頭に置きつつ、その学習内容及び特徴を明らかにした。

2. オンタリオ州の環境教育方針の作成プロセス

2007年に学校カリキュラムに環境教育を組み入れる方策の提案をまとめた報告書が発行された。この報告書の提案に沿って、2009年に環境教育ストラテジーが作成され、さらに2011年に中等教育レベルの環境教育カリキュラム作成の手引き改訂版が発行された（初版は2009年発行。初等教育レベル（1～8学年）版も2009年に発行されている）。

3. 科目「環境科学」の内容構成

環境科学（進学コース、就職準備コース）の内容の大項目を表1、2に示す。どの項目においても環境問題の原因や課題だけに着目するのではなく、科学技術発展の利点と難点の両方を取り上げ、環境と人間や科学技術がどのように関わってきたか実際に生徒に調査させる学習活動が多く含まれていた。さらに、どちらも「省エネルギー」では、「再生可能・再生不可能」なエネルギーに関する内容が多く、持続可能性の視点が含まれていると考えられた。

表1 「環境科学(進学コース)」大項目

- | |
|-------------------|
| A. 現代の環境課題の科学的解決策 |
| B. 人間の健康と環境 |
| C. 持続可能な農業と林業 |
| D. 廃棄物の削減と管理 |
| E. 省エネルギー |

表2 「環境科学(就職準備コース)」大項目

- | |
|-----------------|
| A. 人間の環境への影響 |
| B. 人間の健康と環境 |
| C. 省エネルギー |
| D. 天然資源の科学と管理 |
| E. 安全と環境に責任ある職場 |

4. 日本の高等学校科目から見たオンタリオ州「環境科学」の特徴

エネルギー問題に関して、日本の高等学校科目では「エネルギーの有効利用」、「資源の有限性」に重きが置かれているのに対し、オンタリオ州「環境科学」では「再生可能・再生不可能なエネルギー」、「エネルギーの効率性」に重きが置かれており、エネルギーの有効活用という視点ではなく、エネルギーの持続可能性という視点が重要視されていると考えられた。

オンタリオ州「環境科学」の特徴に関して筆者が注目したいことは、生徒に調査や分析をさせる活動を多く含んでいることである。生徒自らが積極的に課題に取り組み、体験することで環境問題や環境に関する科学事項をより身近なこととして捉え、社会の一員として環境問題を自らの問題と捉えることができると思うからである。